



地震に備えて

日頃から、地震が起きた時の行動をイメージしておきましょう。

地震発生

落ち着いて!まずは自分の身の安全を確保しましょう。

1~2分

❗ 揺れがおさまったら、火元を確認する。

コンロの火を消し、ガスの元栓を閉める。火が出ていたら消火する。



3分

❗ 靴をはき、ガラスの破片などから足を守る。

❗ ドアや窓を開けて逃げ道を確保する。

家族の安否確認

5分

❗ ラジオなどで正しい情報を確認

間違った情報やうわさなどにまどわされないように!



❗ 家を出る前に電気のブレーカーを切る。

OFF!

土砂災害のおそれがある場合はすぐに避難する



5~10分

余震に注意!

崩れる危険性がある建物には近寄らないこと

❗ 避難途中の注意!

ブロック塀やガラスに注意する。車は使用せず、徒歩で避難する。



❗ 隣近所の安否確認

一人暮らしの高齢者には積極的に声をかけ、安否確認する。必要であれば避難の補助を行う。

❗ 消火・救出活動

隣近所で協力して消火や救出活動を行う。



10分~数時間

1~3日くらい

❗ 生活必需品は備蓄でまかなう。

災害発生から3日程度は、外部からの応援は期待できない。



❗ 災害情報、被害情報の収集

町の広報に注意する。

避難生活では ❗ 自主防災組織を中心に行動する。集団生活のルールを守る。助け合いの心で!

震度4

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が倒れることがある。



震度5弱

- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



震度5強

- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



震度6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



震度7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

